



行事で子どもは育つ

～行事で『きりひらく』～

『行事で子どもは育つ』 この言葉が示す通り、行事は子どもたちにとって、日常では得られない体験ができる貴重な場です。本校でも様々な行事を通じて、子どもたちが大きく成長する姿を見守り、支えています。

10月 は、中・高等部の修学旅行をはじめ、スポーツ交流会や交流及び共同学習、校外学習など子どもたちが新たな一步を踏み出す機会にあふれています。そして、11月に開催される『やまぶき祭』に向けての準備も本格化していきます。これらの行事で得られる経験は、子どもたちの心に新たな風を吹き込みます。社会性や協調性、自主性を育むだけでなく、日常の枠を超えた挑戦や発見の場となり、自分の可能性を信じる力を養います。その一つひとつの体験が、子どもたちの心に深く響き、未来を自ら切り拓いていく大きな原動力となるでしょう。挑戦することには難しさを感じることもありますが、成長を促す大切な要素です。困難や失敗を乗り越える経験は、将来の大きな力となります。悩む権利や失敗する権利を大人が奪わないことも大切で、子どもたちが自主的に挑戦し、失敗から学ぶ力を育むためにも手を差し伸べすぎないように心がけ、学校として全力でサポートしてまいります。(一方で、誤った学びにつながらないように、適切なタイミングで支援やサポートを行い、正しい方向へ導くことも大切にしております。)

先日の学校公開には多くの皆様に御参加いただき、誠にありがとうございます。御参観いただいた授業では、指導者が『学習指導要領』に則ってねらいを明確にし、子どもたちの実態に即した工夫を凝らしながら、学びの山場や見どころを大切にしながら授業を進めています。その様子を『参観ガイド』と共に御覧いただけたことと思います。今後もこのように授業を通じて、子どもたちの学びをさらに深めてまいります。

引き続き御支援、御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

校長

江口 直美

第2回ふれあい心のステーション

令和6年9月11日（水）・12日（木）に京都府教育委員会主催の『ふれあい・心のステーション』が開催され、本校から高等部3年生の生徒14名が参加しました。大丸京都店様に御協力いただき今年度で第27回の開催という歴史ある取組で、生徒達が日頃の作業学習で作った製品や野菜等の販売をとおして府民の方々と触れ合いむすび合う学習の場です。

本校の生徒達も当日に向けてたくさんの木工製品と野菜を作りつつ、並行して自分達が作った木工製品や野菜の良さをアピールする方法を考えたりお客様に喜んでいただける接客を練習したり自分達にできることを工夫してきました。当日は、お客様から「とても素敵な木工製品ですね。」「おいそうな野菜ですね。」とほめていただき、生徒達は『努力が報われました。』『お客様に喜んでいただけました。』『たくさん買ってもらってうれしい。』と達成感を得ていました。

この『ふれあい・心のステーション』は、9月の障害者雇用支援月間に開催されてきました。今年度も、生徒達が一生懸命に輝く姿やもっている力をたくさんの方々に知っていただけたと感じています。御来場いただいた皆様、本当にありがとうございました。



学校運営協議会主催

ISCC

～IDE YAMABUKI SPORTS & CULTURE CLUB～

児童生徒の卒業後の生活を見据え、生活の場にスポーツ、文化を取り入れるきっかけ作りをしています。また、この活動をとおしてボランティアや講師の方等、地域の方との相互交流ができる場を目指しています。



☆わくわくWork☆ ～栄養教諭～

今回はみんなが大好きな給食を考える栄養教諭の永戸先生です。栄養教諭は給食の献立、調理業務、給食室の衛生管理の業務に加え、食育を中心とした取組を考えたり、実際に指導に携わっています。



学校給食
インスタグラム
二次元バーコード

